

真声会 会報

第 48 号

2009年 6 月15日
発行

発行所
京都市立芸術大学音楽学部同窓会
真 声 会
〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13番地の6
京都市立芸術大学音楽学部内
TEL (075) 334-2222

真声会 総会のご案内

平成21年度真声会総会、及び懇親会を来る 7 月19日（日）に、右記の通り開催致します。

今回の総会では、2 年前に新体制でスタートしてから役員一同で取り組んだ様々な事業報告の他、更に今後予定されている会員特典を設ける新しいプロジェクトの報告も行います。また来年創立130年を迎える母校京都芸大から潮江宏三学長にお越しいただき、「芸大130年の歩み」と題して特別講演を行っていただくことになっています。

会員の皆様方にはお誘い合わせてご参加いただき、より良い交流の場となることを願っております。ご多忙とは存じますが、是非お運び下さいますようご案内申し上げます。

日 時	2009年 7 月19日（日） 総会 10:00～（9:30より受付） 学長特別講演 11:15～ 懇親会 12:00～14:00頃まで
会 場	からすま京都ホテル（京都市下京区烏丸通四条下ル） TEL 075-371-0111
会 費	4000円（当日会場にて受付）
総会議題	1. 2007年度・08年度事業報告について 2. 2008年度会計報告、並びに監査報告について 3. 2009年度予算案について 4. その他

◎ 同封のハガキにて総会の出欠を **7 月 5 日必着**でお知らせ下さいませよう
お願い致します。（**7 月 5 日以降は投函しないで下さい**）

◎総会についてのお問い合わせは、運営委員長 大谷正和(32期Pf) まで。

京都市立芸術大学創立130周年記念事業について

来年2010年、京都市立芸術大学は1880年の京都画学校設立より130周年を迎えます。
本年2009年よりイベントとして、2 年にわたりさまざまな記念行事が下記のように予定されています。
さる 4 月 8 日、潮江宏三京都市立芸術大学学長が真声会拡大運営委員会（於：ザ・パレスサイドホテル）を来訪され、大村益雄真声会会長に右記文書を手渡しされ、京都市立芸術大学130周年記念事業のためのご寄付のお願いをなされました。これを受けて、真声会会長による真声会会員の皆様への記念事業のためのご寄付をお願いする文書を同封しております。是非ともこの機会にご自由な金額でご寄付いただきたく、会報発行時 4 回にわたりご寄付をお願いする予定です。

どうかご賢察くださりご協力いただきますようよろしくお願いいたします。なお、ご寄付頂きました金額はその都度合算し、次回以降の寄付お願い時に、寄付募金の金額と進行状況を報告させていただきます。

音楽学部の催し物

第132回定期演奏会 2009年 7 月 5 日（日） 京都コンサートホール
ハイドン没後200年オーケストラと合唱（仮） 2009年10月 2 日（金） 北文化会館
ミュージックフリー（ガラコンサート） 2009年11月22日（日） 京都コンサートホール
第133回定期演奏会「第九」 2009年12月 4 日（金） 京都コンサートホール
130周年記念オペラ「椿姫」（2 夜開催）

2010年 2 月19日（金）・20日（土） 京都会館第 2 ホール
第135回定期演奏会 2010年 7 月 4 日（日） 京都コンサートホール
第136回定期演奏会 2010年12月 5 日（日） 京都コンサートホール

美術学部の催し物

京都市美術館及び京都国立近代美術館における作品展覧会、並びに「芸術と宇宙・医療」等をテーマとした国際シンポジウムを計画。

日本伝統音楽研究センターの催し物

本歌取りをテーマとした130周年記念公開講座を計画。

平成 2 1 年 4 月 8 日

京都市立芸術大学音楽学部同窓会
会長 大 村 益 雄 様

京都市立芸術大学 1 3 0 周年記念事業実行委員会
会 長 潮 江 宏 三
（京都市立芸術大学長）

京都市立芸術大学創立 1 3 0 周年記念事業のためのご寄付のお願い

貴同窓会におかれましては、日頃から、本学の教育研究活動並びに本学の教育研究活動を支える振興協会及び基金事業につきまして、格別のご理解、ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学は、明治 1 3 年にわが国で初めて芸術を教育するための学校として誕生し、来る平成 2 2 年に記念すべき 1 3 0 周年を迎えます。

本学は、京都の発展のために美術工芸教育を推進しようと考えた多くの皆さんの熱心な運動と浄財によって実現した市民の大学です。のちに音楽教育が加わり、わが国を代表する総合芸術大学となって市民の皆様のご支援を糧に発展し、世界に誇り得る多くの著名な芸術家を世に送り出すことができました。

私は、栄えある創立 1 3 0 周年に当たって、これまで本学が、市民の皆様に期待に応えて積み上げてきた熾然たる成果と芸術の可能性を追求し京都の更なる発展を目指して努力する姿を市民の皆様に見ていたき、共にお祝いしたいと思います。

記念事業では、市民の皆様は、本学 1 3 0 年間の教育研究は、次のことにおいて、わが国及び京都において大きな貢献をし、また、今後更に、大きな役割を果たすであろうことをご理解いただけるものにと考えています。

第一には、純粋芸術といわれる創作活動、表現活動において、第二には、芸術教育、芸術文化運動において、第三には、伝統工芸、デザイン等のものづくり、産業分野において、第四に、人の感性をよりどころとして現代の閉塞的状況を切り開く大きな可能性においてです。

本学が京都の芸術文化の創生にふさわしい役割を担うことを希求し、本学の更なる飛躍の契機とするために、是非とも成功させたいと考えています。

つきましては、貴同窓会におかれましては、この趣旨にご理解いただき、ご支援を賜りたく、ご寄付をお願いする次第です。

何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、ご寄付は、記念演奏会などの 1 3 0 周年記念事業に活用するとともに、京都市立芸術大学芸術教育振興基金に充当し、国際交流及び情報発信の充実に係る事業に活用させていただきます。

過去から、明日に向かって

真声会会長 大村 益雄（1 期作曲）

中国、春秋時代の思想家、孔子のことを書いた儒教の教典「論語」に、「温故知新」という言葉があります。「故（ふる）きを温（たず）ね新しきを知る」という意味で、「古い事柄も新しい物事もよく知っていて初めて人の師となるにふさわしい」と解釈されています。私はこの言葉が好きです。私は人の師となる器ではありませんが、人一倍（一倍ですから人並みということです）好奇心が旺盛で、時間を見つけては、世界中の古い文化、文明を訪ねています。アフリカの南エチオピアで、未だに唇にお皿を嵌めて裸で暮らすムルシ族、パプア・ニューギニア島のイリアンジャヤで、コテカ（ペニスケース）を嵌めた裸



高原に生活している、唇にお皿を嵌めたムルシ族の女性。

のダニ族、など、四輪駆動車で奥地に這入りながら、それらの土着民族の生活に直接触れることができました。今、世界中の先進国で物質文明が精神文化を凌駕する傾向にありますが、これら土着民族の生活では、素朴で温かい心を持ち、人の絆を大切にしています。人間本来の精神文化と共に、ゆったりとした時間の流れの中で生活しているのです。もし第 3 次世界大戦が起こったら、生き残るのは、彼らだけでも知れません。彼らの生活ぶりを見ていると、精神文化としての音楽や芸術の大切さを、とても強く感じさせられます。また、エーゲ海にあるクレタ島では、ギリシャ文明から更に 1000 年以上も古いミノア文明に触れることができました。その当時の壺や絵画など、芸術表現の高さを肌で感じ取ることができ、その素晴らしさは驚嘆に値します。それらを生み出した民族は、紀元前1500年頃に起きた火山の大爆発で既に滅んでいるようですが、その当時の精神文化の高さに強い思いを馳せることができます。（次ページへ）



紀元前1500年以上前の、ミノア文明の女性の塑像。



個性的にデザインされたミノア文明の壺

写真撮影：大村益雄

（前ページより） さて、音楽学部同窓会である真声会も、精神文化としての人の絆を基に、新しい方向へ進んで行かなくてはなりません。真声会の存在意義を高めるため、真声会の役員になって頂いた方々（今年、第54期生を迎えますから年齢差は50歳を超え、子から孫の世代になってきているのですね）が中心となり、今までの運営を更に改善し、発展させるための努力を続けて頂いています。真声会の存在価値は、以前にも述べましたが、1）会員間の互惠、2）母校京芸への協力、3）社会への貢献、にあります。世話役としての役員からの知恵、一般会員からの改善意見、などを基に、新しい対応策が次々と打ち出されてきています。先日刊行された真声会名簿、前回、および、今回発行の会報紙面を見て頂ければ、会員相互の絆を大切にし、大きな目的に向かって着実に進んでいる「真声会」の姿を理解して頂けると思います。その具体例としては、会報に既に記載されているものもありますが、

卒業生としての想い

第54期卒業生 海塚 威生（ホルン）

若草萌えるうらかな春日の候、大変僣越ながら第54期卒業生を代表しまして、謹んで筆をとらせて頂きます。

今から4年前の春、先生や職員の方々、先輩方に迎えられながら希望を胸に入学した日がついこの間かのように、とても鮮明に記憶しております。私にとって4年という月日はとても充実した毎日でした。音楽や楽器に真正面から向き合うことで、今までに体感したことのないものを得たり、問題点や課題に苦しみながらもそこから解決策を見つけより良

会員各人の地道な音楽活動の紹介、母校京芸定演への無料招待手順、会員特典が受けられる真声会「会員証」の発行、真声会年会費納入の定年制の導入、などなどです。会則の改正が必要なため、導入が遅れるものもありますが、一步一步、着実に明日に向かって進んでいると思います。そして、これらは全て、一般会員、年度役員、支部役員、本部役員のアイデアで、実現へと漕ぎつけてきたものです。また、これら実現のための各担当役員会が度々行われ、これら会議の議事録は運営委員により作成されており、大谷正和運営委員長（32期ピアノ）へ問い合わせて頂ければ、いつでも見ることが可能です。

「温故知新」、真声会活動の結果は、最後には、会員各人の心に戻ってくるのが大切です。会員の皆さまの更なるお知恵とご意見をいただけるよう、また、母校の発展、真声会の発展のために、絶大なるお力添えをいただけるよう心からお願い申し上げます。

いものにしていき、想像力や忍耐力など様々な力を伸ばせたと感じております。それは、私たちのことを日々気遣ってご指導して下さいる先生や先輩方、普段の生活を支えてくれている家族や仲間あつての事だと、とても感謝しております。この得た力は音楽という世界を越えて、これからの私の人生の中でも自分の魅力、武器として生かしていきたいと思

います。卒業式にて潮江宏三学長より「前向きに生きているものは、ピンチの中からチャンスを見出す能力を持っている」という温かい励ましの言葉を頂きました。現在の世の中は、閉塞感を感じさせるような言葉や報道が飛び交っています。しかし、そんな時だからこそ自らの力で立ち上がり行動していくことが大切だと感じました。卒業をした今、自分に何ができるのか、これからをどう変えていくかをしっかり見据えながら、音楽を愛しその魅力を多くの人に伝えるという役目の一端を担えるよう日々精進して参ります。

同窓会事務室が本格稼働しました！

2009年1月、音楽学部同窓会事務室が開室いたしました。すでに開室している美術学部と共同で、美術学部音楽学部同窓会事務室として稼働しています。

開室日：毎週月曜日（10：00～15：00）

※年末年始、お盆、祝日及び学内立入禁止期間（入試等）は休室します。

真声会専用電話番号ができました！

本部役員が会員業務に関するお問い合わせをお電話でも直接にお答えいたします。ぜひお気軽にご連絡ください。

専用電話番号 080-6185-4494

（受付時間10:00-15:00〈開室日のみ〉）

受付時間以外にお電話頂いた場合、留守番電話にお名前とご連絡先を録音して頂ければ、開室時間中に同窓会事務室よりご連絡いたします。

130周年記念事業 第九合唱出演者募集

130周年記念事業のプレコンサートとして12月4日（金）に予定されています、第133回定期演奏会の第九合唱出演者を募集いたします。

合唱団は在学生、卒業生と京都市民により構成されます。今回は、卒業生からは30名程度の参加となります。出演者には交通費程度が支給される予定ですが、些少のため、京都市内在住の声楽専攻出身の方を中心に募集します。（応募者多数の場合は抽選となります。）

曲目：ベートーヴェン《第九交響曲》（指揮：阪哲朗（35期作））

一練習及び本番の日程ー 12月1日（火）合唱合わせ19：30～
2日（水）合唱合わせ19：30～
3日（木）合唱合わせ19：30～
4日（金）本番

上記のうち、前日練習・本番を含む3日以上のお出席が必要です。また、本番当日は暗譜です。

ご応募は、以下のメールアドレスもしくは真声会宛に、お名前、卒業期、パート、連絡先をお送りください。お問い合わせは以下のメールアドレスもしくは同窓会事務室まで。応募の締切は、メールの場合は7月末日、郵送・FAXの場合は7月27日（月）15時。

kyougei130_dai9@yahoo.co.jp  （第九合唱出演者募集専用アドレス）

☆予告☆

2010年12月5日（日）の第136回定期演奏会には、130周年記念事業のメインイベントとして、指揮：広上淳一氏（京都市交響楽団常任指揮者）が予定されています。その折にも管弦楽・合唱においてお手伝いをお願いいたします。詳細は会報第50号に掲載します。

（担当：奥田聖子（48期声））

会員証がお手元に届きます！

会員の皆さまへのサービス向上のため、会員証の発行の準備を進めております。

現在、会員証のデザインが練られているところです。

さまざまな会員特典が付加された、非常に便利なカードです。



案1



案2



案3

会員特典の具体的内容に関しては現在調整中で、お手元に届きます折にあためてお知らせ致します。

会費納入済みのみなさまには全員、次回会報発送時に同封する予定です。

7月の総会で承認が得られましたら、会員証の作成、発行手続きに入らせていただきます。初回の会員証発行には、事務手続き上、**8月末日までの**会費納入が必要となります。銀行引き落とし登録申請の場合も**8月末必着**にて振替依頼書を送付いただく必要があります。

会費納入に関しては、現在、年会費は銀行引き落としにて3000円、終身会費は郵便振替にて50000円を納入いただくこととなっております（会則の補則による）。但し、現在は諸事情で、年会費3000円の郵便振替等も受け付けております。振込用紙は郵便局でも入手できます。

- ・郵便振替口座：01070-4-16071（真声会）
- ・銀行引き落としにつきましては、基本的にはどの銀行、信用金庫、組合（農協など）からでも引き落としできます。**南都銀行**の振替依頼書に、銀行口座等記入いただき、銀行口座の届け印の捺印が必要です。

何かご不明な点等ございましたら下記までお気軽にお問い合わせください。

〒635-0093 奈良県大和高田市磯野町18-4
菊田義典（会計担当 42期声楽）
TEL 0745-52-8450 FAX 0745-25-1630
E-mail dummdummertenor1971@ybb.ne.jp
（但し、電話は平日日中はほぼ不在です）

※現金書留で送金される方がいますが、郵便振替・銀行引き落とし以外では受取ることができません。ご了承ください。

※最近、業者からの名簿年鑑作成を呼びかける往復葉書（ダイレクトメール）が皆様のところに届いている模様です。これは、京都市立芸術大学及び真声会とはまったく関係ありません。

4年で100人《会員だより》

一期生よりひとこと

植田 治男（1期声楽）

昭和27年5月、北は出雲路橋西詰高瀬川の畔に京都市立音楽短期大学が誕生しました。私達のクラスは50名でしたが、今日までに11人の朋友が亡くなられたので、改めてご冥福を祈ります。

とにかく一期生というのは張り切り過ぎる程で、特徴としては、何事においても専修の区別なく全員でぶつかった事はクラス全員の心に残っていることと思います。少し話は飛びますが、「真声会」のことですが、これは我々卒業前に何か残していきたいと思い、卒業後の演奏会等は勿論いろいろイベント等においても、ただの同窓会というより、命名の普及時間はかかって、きつと後程役に立つことと思ひ、全員集つてこの名前が出来たのです。最初は「真声会」って？ということの説明ばかりでしたが、今は全国に支部が出来て大活躍の場に使われて本当に嬉しい結果になりました。

以降は短大時代の思い出を書いて終わりたいと思いますが、それこそ真声会合唱団（女性）はその名の通り今も復活していますが、当時としてはきれいなユニフォームで名実共良い演奏で随分幅広く活躍の場をこなしてくれました。次は、当時としては大変だったオペラの自主公演 矢田部広（3期作曲）「一寸法師」、クルト・ヴァイル「Ja!Sager（はいと云う人）」、清水修「炭焼姫」、プッチーニ「ソウル・アンジェリカ」、フロトー「マルタ」の出演、みんな協力しましたよ!!まだまだありますが今回はこの辺でピリオド。

最後になりましたが、これだけは会員全員心に残して置いてください。昭和42年に朝日新聞一面に「音大よ何処へ行く」という見出しで内容は廃学に向かうということ、会員何人かが市長（高山義三氏）に面接の機会を与えられ、学校は残り、今や四年制、そして大学院とリッチになってくれて嬉しいことですが、リッチの前には口で言えないハングリーの時代があったことをお忘れなく、益々京芸を立派に進展させ、それこそ聴衆の心に“うるおい”を与えてください。廃学問題については詳しく書きたいのですが、故人となられてもどうしても御名前を出さねばなりません、そうすると誤解が生じますので、何時か話し合いの場を作つてくだされば洗ひざらい申し上げたいと思っています。頑張つて！！

京都子どもの音楽教室と私

朴 実（12期作曲）

大学の校舎が岡崎にあった頃、同じ校舎に堀川高校音楽科（現・市立音楽高校）や「子どもの音楽教室」があり、土曜日午後になると静かな校舎が急に賑やかになりました。大教室で小さな子どもたちから高校・大学生が一緒になってオーケストラの練習をしている風景はとても家族的な雰囲気でした。卒業して1年経ったある土曜の午後、ふっと大学に寄ってみると担当教授がおられ、私を見るなりこれから毎週土曜日午後に来るように言われ、音楽教室に関わるようになりました。

あの日から40年間、歳月はあっという間に過ぎて行きました。その後教室は移転を繰り返し、3年前から現在の元・有済小学校で授業を行っています。この間、移転に伴う困難は数多くありましたが、とりわけ16年前、移転先が見つからず一度は閉鎖をも覚悟しました。幸い京都の音楽界のために音楽教室は必要だと言つてくださる方々の支援で、何とか危機を乗り越えることができました。

私は音楽教室で多くのことを学び、教えられてきました。何よりも子どもたちの持っている能力の無限さと素晴らしさです。特にそれを感じたのは創作オペレッタの制作過程でした。私自身何度か今回はだめかと思うときがありましたが、その都度子どもたちに助けられ、これまで20数回もオペレッタを上演してきました。来年度からは市立音楽高校の新築移転に伴い、音楽教室も音楽高校新校舎に移転する予定です。昔のように、同じ校舎で子どもから高校・大学生が共に学び、演奏できる日が再び訪れることを夢見ています。

阪田 量子（15期ヴァイオリン）

昨年3月京響を定年退職致しました。入団当時の常任指揮者は故渡辺暁雄氏。高貴な雰囲気が出てくる優しい物腰で、とりわけシベリウスの演奏にかけては絶品であったと強く印象に残っております。次の常任は故山田一雄氏。実にエネルギーで音楽が溢れ出る指揮者でした。以来数十年間、数え切れない程の素晴らしい指揮者、演奏家から何物にも変え難い感動の数々を戴きました。又、伊藤京子氏や故立川澄人氏等、往年の名歌手が演ずる東京二期会の「バタフライ」や「夕鶴」で全国を回った事は素晴らしい思い出となりましたし、ポリショイバレーやレニングラードバレーの時は、指先の動きに至るまで、その美しい表現に新鮮な感動を覚えたものです。

オーケストラの仕事は、時間が不規則である事に加えて旅行で家を空ける

事も多く、仕事が入らない日も先ずは楽器に触れる事が最優先。家庭の主婦にとってはどちらかと言えば優しい仕事ではありませんが、これらの感動に加えて、とにかく音楽が好き！ということで何とか無事に定年まで勤める事が出来たと思います。

只々感謝の一言です。長いようで短かった京響の仕事を終えた今、漸く我に返り毎朝花に水をやり、ドライブを楽しみながらテニスコートに通ひ、台所を楽しむ余裕さえ出来ました。一方、長年の夢であったベートーヴェンのソナタにもじっくり取り組む時間が出来、同窓生でピアノ出身の主人と共に限らない興味を覚え、今漸く一歩ずつ前進を始めました。又、気が置けない友人達との弦のアンサンブルもかけがえのない楽しみです。主人は今暫く雇つて戴けるところがあり、共通の時間を思うようには持てない現状ですが、いずれ二人揃つてサンデイ毎日となった暁には、主人を添乗員に音楽の本場ヨーロッパで長期間音楽三昧に明け暮れ出来る事を楽しみにしています。

船橋 美穂（25期ピアノ）

高校時代は普通科だったので、京都芸大に入学してはじめてどつぷりと音楽につかる毎日になりました。そこではじめて伴奏や室内楽に出会い、ともに音楽をつくり、その演奏を通して共演者と心が1つになる瞬間の魅力にとりつかれ、現在まで主にアンサンブルピアニストとして数多くの演奏家と共演してきました。

声楽や器楽の演奏者と共演してきた経験をもとに、ピアニストからの視点でアンサンブルのプログラムを組んでみよう、と、1997年より、“サウンドブリズム”というアンサンブルシリーズをはじめました。国内外で活躍しておられる多彩な演奏家をゲストに迎え、毎回ひとつのテーマををかけてプログラムを決めてきました。試行錯誤を重ねながら回を重ね、来年2月20日には第10回目を迎えることになりました。今回のゲストとして森悠子氏と長岡京アンサンブルのメンバーを迎えて室内楽を中心としたプログラムを計画中です。

共演する演奏者の音楽に自分の音楽を融合させ、演奏する曲が生命をもっているように生き生きと流れることに何物にもかえがたい喜びを感じています。

伴奏者は演奏者を引き立てる役割を担っていますが、常に控えめにといわれるような場面にも時々遭遇します。バランスは常に難しい問題ですが、伴奏者は共に音楽を創り上げていく上で重要なパートナーであると思っています。常に控えめではなく音楽上のバランスを客観的にみて、よりよいハーモニーを求め変幻自在に演奏しようと心がけています。

7月にヴァイオリンの石上真由子氏、9月に森悠子氏、11月にソプラノの林田明子氏（37期卒）のリサイタルで共演する予定です。それぞれの方達と共にリハーサルを重ねる中でどのような音楽が生まれるのかを楽しみにしています。

次は私の番

三妙 睦（26期チェロ）

去年一年は我ながらよく動きました。

要領もあきらめも悪いので、母親業を始めて以来、二人の男の子の子育てにどつぷりはまってしまい、自分の事を考える静かな時間はなく、自分のための投資なんて考えてもみませんでした。でも京芸時代に恩師の黒沼先生がレッスンのときに私におっしゃった「これだけ教えてもねえ、女の子は結婚したらすぐチェロやめちゃうからねえ」というお言葉が忘れられずにもいました。

子供たちが小さくて一番大変だったころの我が家は、夫は仕事が忙しくて事実上の母子家庭で、家事育児のほとんどすべてを一人でこなしました。そして去年、「半分は親の受験」といわれる息子の中学受験が無事済んでやっと自由の身になれたのでついに弾けてしまいました。

去年の三月、「次は私の番」宣言をしました。そしていままでのガマンの反動が来たかのように行動を起こしました。まず、キャリアカウンセリングを受け、時間管理のための手帳の使い方から教わりました。会社に勤めた経験のない私にとって、この時間管理術はまさに目からうろこでした。

それからNPOのリーダーを養成する目的の人材育成プログラムを受講して、音楽とは全く違う分野のたくさんの方々のパワフルな人々に出会い、とても刺激を受けました。

和歌山は田舎なので何もないようですが、考えようによっては、「まだ何もないので何でもできる」ところでもあります。

今は、下の子供がまだ小学生ですし、親の介護がもう目の前まで迫つていて、やっと手に入れた「私の番」もあと一、二年でまたお預けになりそうなので、今のうちに少しでも次のステップへの足がかりを作っておこうとしているところです。

山本 福久（院16期声楽）

去る4月25日、(財) 青山音楽記念館助成公演「山本福久メゾソプラノリサイタル」を無事納めさせていただきました。皆様のあたたかいご支援のもと、初めてのリサイタルを開催させていただけましたことに、心より感謝申し上げます。プログラムは、これまでじっくりと歌い続けてきたフランス歌曲とオペラアリア、今一番夢中になっている日本歌曲と、これから挑戦してゆきたいモーツァルトの作品と、少し欲張りではありますが、過去・現在・未来を織り交ぜて構成いたしました。この公演は、昨年行われました第19回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門にて第1位木下賞および中田喜直賞をいただきましたお披露目でもあります。伴奏には20年来の友人であり、またこのコンクールにて共演し、最優秀共演者賞を受賞された小林美智さんをお願いしました。会場のバロックザールは、私が高校生で声楽を始めて間もない頃に、発表会でその舞台に立たせていただいたことをはじめ、京都フランス歌曲協会の催しでも大変お世話になったホールです。すばらしい音響と、静かで優雅な佇まい、そしてスタッフの方々の心のこもったお仕事ぶりは、他に比べるべくもなく、私にとってはまさにオンリーワンのホールなのです。マネージメントは、演奏活動ができなかった時期に、ふとしたことでご縁をいただいたコンサート・マテリアルズさんをお願いしました。スタッフのIさんは、私が歌い手だとご存じなかったので、お仕事をお願いしたときには驚かれていましたが…。

ここには書ききれませんが、在学中から卒業後、現在に至るまで、たくさんの方々と、様々な出会いと交流がありました。それら全てが今回、集大成されたように思います。そしてここから、また新たな歩みが始まってゆく予感がしています。

これまで支え続けてくださった皆様への感謝の言葉で、近況報告の結びに

かえさせていただきます。
ありがとうございました。

* * * * *

出会いを大切に

安田 直己（52期打楽器）

今年の3月に大学院を修了しました、安田直己です。

昨年10月に青山音楽記念館で開催しましたリサイタルで、幸運にも青山音楽賞新人賞を受賞させて頂き、その財団からの全面的な支援を受けて、現在ドイツのベルリンを拠点に海外研修をしています。

以前から海外への憧れがあったので、今回のヨーロッパでの研修が実現した事は、願ってもみないチャンスとなりました。こちらに来て2週間が経ち、ウィーン交響楽団やベルリンフィルハーモニー管弦楽団のティンパニ奏者からのプライベートレッスンに加えて、海外の一流オーケストラの演奏会を連日聴きに行くという、とても充実した毎日を送っています。

6年間の大学生活は、先生や友人、先輩、後輩……その他、本当に多くの人たちとの「出会い」で溢れていました。その出会いのひとつひとつが、私に色んな影響を与え、これまでの私を育ててくれました。それは、もちろん今の自分の演奏する音一音楽にも繋がっています。

今後私は、オーケストラでの活動を中心に幅広い音楽活動を展開していきたいと思っていますが、これからも「出会い」を大切に、そして、これまで出会った全ての人たちに感謝の念を忘れずに、大好きな音楽を続けていきたいと思います。

今号の会員だよりには12名の会員の方より寄稿いただきました。
この場をお借りして御礼申し上げます。

真声会 各支部活動報告

大阪支部

「プロムナード・コンサートin大阪狭山」が、2008年11月2日（日）午後2時から大阪狭山市文化会館SAYAKA小ホールで、平成20年度さやま芸術祭として開かれました。「“あにまる・お〜けすたら”の動物の謝肉祭」の表題で総勢14名が出演、同窓会のコンサートらしい、そして、京芸の名に恥じないクオリティの高い内容となって会場は熱気に包まれ、多くの親子連れが音楽に親しむことが出来て成功を収めました。内容と出演者は次の通りです。

- ・ブーランク/シテール島への船出
 - ・石若雅弥作品集「コスモス（与謝野晶子詩）」
「私と小鳥と鈴と（金子みすゞ詩）」ほか
 - ・シューベルト/ピアノ五重奏曲イ長調「ます」より
 - ・シュライナー/クラリネットとオーケストラのための
「インマー・クライナー」
 - ・サン=サーンス/組曲「動物の謝肉祭」（ナレーション付） ほか。
- fl.picc.阿野由希子(42期)、cl.西川香代(45期)、pf.小林千恵、五嶋利恵(共に41期)、vn.西尾恵子(客演・東京芸大卒)、阪中美幸(48期)、va.小林明日香(47期)、vc.中山由佳理(40期)、cb.平田昭浩(42期)、pec.高木真稚恵(47期)、細江真弓(京芸大学院生)、作曲,pf.石若雅弥(50期)、sop.nar.康 瑛(31期)、mc,sop.中島慈子(10期)

＜あにまる・お〜けすたら＞は、2003年8月、真声会大阪支部会員を母体として結成。楽団のメインレパートリーであるサン=サーンスの組曲「動物の謝肉祭」をナレーション付のオリジナル編成で演奏することから名づけられた。プログラミングは機に依じてオリジナル編曲も含め、多岐にわたる。

支部総会は、6月15日(月)18時半から、ホテルグランヴィア大阪のレストラン「フルーヴ」で開かれます。一年のまとめと今後の活動について話合います。もちろんディナーで大いに親交を深めます。

大阪支部に関するお問い合わせ・入会は、事務局545-0004大阪市阿倍野区文の里4-12の25樋口博行方、電話とファクス06-6624-3425まで。(文中敬称略) 広報担当 金森重裕（6期cl）

関東支部

ずいぶんと時はさかのぼりますが、昨年11月30日（日）にすみだトリフォニーホールにて、第13回定期演奏会が開催されたことからご報告いたします。いつものように、歌曲あり、オペラアリアあり、ピアノソロはオリジナル編曲のものあり、ジャズ、ボーカルアンサンブル、コーラスとバラエティーに富んだプログラムでしたが、卒業30年目の記念にと23期の西脇由美さん（Fl）加瀬照美さん（Vn）中島佳代子さん（Pf）がゴベールのトリオ「古風なメダル」で初出演してくださり、いっそうステージも楽屋も盛り上がりました。三人は上京して子育てをする中で、

数年前から連絡を取り合って少しずつ音を取り戻してきたとおっしゃいます。母校に誇りを持ち向上心を失わず活動を続けて、心地良い緊張感と和やかな雰囲気で迎える関東支部定演の空気はすっかり定着しました。

5月3日には副支部長坪井フミ子さん（8期声楽）が古希を迎える記念にと京都支部のプロムナードコンサートにご出演。伴奏は同期ピアノ科でかつて京芸で非常勤講師を勤められた斉藤隆子先生です。会場いっぱいのお客様でご盛会だったとかがいます。

また、5月13日には、昨年4月に若くして他界された土師博志さん（20期作曲）を偲んで、ジャズの世界でアレンジャーとピアニストとしてながらく共にお仕事をされてきた加藤アオイさん（16期ピアノ）が追悼ライブを開催しました。片腕をもぎ取られたような気持ちだという加藤さん……娘さんやお仲間を交えた気持ちのこもったステージでした。

関東支部会報Harmonyの編集もすではじまっており、昨年から取り組んでいる、東京を基点に国内外で活躍中の同窓生を紹介するインタビュー記事「この人にきく！」には、今回高田剛志さん（38期チェロ）にご登場をお願いしています。

6月6日、ピアノ科卒業生有志により、ピアノアンサンブルdoux vol.3を東京スタインウェイ松尾ホールにて開催。今年はBach, Beethoven, Brahms……オールBプログラム！工夫を凝らしながら回を重ねています。

6月15日には銀座キハチにて総会及び懇親会を開催して、今年度もまた気持ちをあらたにスタートです。 曽我尚江（27期Pf）

奈良支部

昨年10月4日(土)、秋篠音楽堂にて奈良支部第12回定期演奏会を開催し、2時間の熱演で暖かいたくさんの拍手を頂いたすばらしいコンサートとなりました。(出演者8名については前号にてすでにお知らせしております。) 出演者もスタッフも同窓の仲間なので、楽屋でもロビーでも和やかな雰囲気が漂い、暖かでアットホームな音楽会となりました。細かいことですが、アナウンスも写真撮影も同窓会員が担当し大変好評を得ました。

奈良支部新体制の方針として、本支部会員だけでなく他支部会員や非会員の方々との交流を通じて多彩なコンサート企画が生まれるよう活動する、というのがあります。その第1弾として新年会を開催しました。残念ながら今回は参加者が多くありませんでしたが、今後も続けていきたいと考えています。たくさんの方々の参加を期待いたします。

おかげさまで、奈良支部事務局を開設し、パソコンメールでスピーディーにニュースを発信し、会員と支部事務局とがより太いパイプで繋がるようになりました。

来る6月20日(土)に総会及び懇親会をJR奈良駅近くの“レストラン

シェノア”にて開催する予定です。 奈良支部長 高橋せつ子(16期Per)

京都支部

第26回プロムナードコンサートを5月3日に「アルティ」で開催しました。会場ほぼ満席（380名）のお客様を迎え、昨年の京都支部設立20周年記念コンサートに劣らず充実した内容でした。支部設立時、小さな規模の「プロムナードコンサート」としてスタートを切った当時は、一体誰が今日の京都支部プロムナードコンサートを想像出来たでしょう！これまでの全ての出演者と、プロデュース、マネージメントに鋭意取り組んで下さった支部企画委員の努力、そして支部会員の皆様の多大なご支援により、この20年間空白を作ることなく、ここまで充実・発展する事が出来ました。

「コール真声会」の合唱団のメンバーも含めて、今回のコンサートの出演者を、卒業期の順にご紹介させていただきます。

斎藤真理子（1期声）、大幸若菜煦（6期Pf）、田村直子（6期Vn）、白石由紀子（6期声）、森田煦美子（7期作）、斎藤隆子（8期Pf）、西村靖子（8期Pf）、西垣淳子（8期Cl）、植山曠野（8期声）、坪井フミ子（8期声）、根来順子（9期Vn）、鈴木美智子（9期Vc）、室谷智子（10期声）、杉山佳子（12期Pf）、大須賀留美子（13期声）、小谷美智子（15期声）、三宅マチ（16期Pf）、高畑園子（33期声）、小柴恵子（34期Vn）、土居知子（35期Pf）、山崎磨子（38期Pf）、谷口佳奈香（47期Pf）、脇由美子（47期Pf）、梅辻理恵（客演・箏奏者）

尚、毎年2回開催の役員会とは別に、支部会則で定められている運営委員会を、昨年12月に開催し、支部としての今後の事業の取り組み方についてお互いに確認し合いました。これからは必要に応じて話し合いの場を増やして、活発な意見交換を行い、議決された事を支部の総意として尊重し、それに基づいてそれぞれの委員が行動する、という趣旨に副って、役員同士の親睦を深め、お互いの意思の疎通を図りながら、更に充実した明るい雰囲気の中で支部活動に取り組んで行きたいと思います。

6月13日(土)に同志社同窓会館大ホールにて、本山秀毅氏を講師に迎えて

合唱指導に関する企画講座を開催。また今年の学部卒業生および院修了生に京都支部入会案内を送付等の事業に続き、9月6日(日)に本年度の支部総会を開催。秋には支部報を発行します。 副支部長 山田晏子（10期声）

滋賀支部

滋賀支部は結成以来21年になり、現在180名余の会員がいます。今年度は新会員に桂田奈保子さん（Fg）、竹村みどりさん（Hr）を迎えました。例年より幾分少ないのですが、我々支部会員とともに湖国滋賀の音楽文化を支える力になっていただきたいと思います。また、昨年度滋賀県に引っ越してこられた中安（旧姓藤原）容子さん（42期声）も入会されました。

支部最大の行事である演奏会「湖のしらべ」も昨年20回という節目の記念演奏会を行いました。20回記念ということで、清水幸子さん（37期作）に編曲をしていただき、女性合唱と小オーケストラのための唱歌メドレー「ふるさとのはしき」という曲を演奏しました。

演奏者は、ソプラノ：小松千加子（3期）、光永伸子（39期）、村辺恵奈（53期）、メゾ・ソプラノ：佐藤光音（53期）、中安容子（42期）、西谷真理子（18期）、アルト：西あかね（43期）、林育子（37期）、フルート：村上奈美（43期）、オーボエ：山出涼子（52期）、クラリネット：伊藤咲代子（53期）、ファゴット：大角多佳子（48期）、打楽器：小松りみ（23期）、中谷満（18期）、ピアノ：井出悟（20期）、ヴァイオリン：桑名しのぶ（47期）、竹村美香（32期）、ヴィオラ：矢島千愛（53期）、チェロ：細辻秀美（40期）、指揮：杉中博（19期Tr）という豪華メンバー！で演奏しました。50歳の年の差も、演奏しているとどこかへ飛んでいってしまい、心温まる楽しい演奏ができたと思います。久しぶりに会った人もたくさんいて、打ち上げも大いに盛り上がりました。その他に、中井絵理さん（52期Cl）、村辺さん、佐藤さんのソロ、伊藤さん、矢島さん、松田千夏さん（53期Pf）のトリオなどもあり、記念にふさわしい華やかな演奏会でした。今年も11月3日にしがぎんホールで第21回演奏会「湖のしらべ」を開催予定しています。皆さまどうぞお誘い合わせのうえお越してください。 副支部長 井出悟（20期Pf）

京 芸 だ よ り

追 悼

昨年10月22日に亡くなられた名誉教授の岩崎勇先生、11月24日に亡くなられた名誉教授の廣瀬量平先生を偲び、追悼文が寄せられました。両先生のご冥福を、謹んでお祈り申し上げます。

追 悼 岩 崎 勇 先 生



10期 岡田 良機

昨年11月に岩崎先生の突然の訃報に接しました時、現実のこととは思えませんでした。その3ヶ月前、8月には先生の喜寿のお祝いの会を門下生一同で催したばかりのことでした。

その折には大変お元気な姿を私達門下生の前にみせて頂けましたのに……。私が先生の教えを受けたのは京芸の前身の音楽短大2年生の時でした。その年、先生はオーボエの教授として赴任されました。もう45年以上も前になります。

私は卒業して大阪フィルハーモニー交響楽団に入団しました。その後、同門の後輩が大フィルに入りましたが、先生とお会いした時に「君がまじめに務めてくれたので後輩を大フィルに送り込むことが出来た」とお褒めの言葉をくださいました。大変嬉しく思ったことを覚えています。

私が音大での先生の一番初めの弟子ということで門下生の会の代表を務めさせて頂きましたが、大変光栄に思っております。

私の音楽生活のスタートの原点は先生のお教えがあったからこそであり、あらためて感謝しております。

岩崎先生のご冥福をお祈り申し上げます。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

有難き師、岩崎勇先生を偲んで

20期 門田 展弥

いずれおとずれる日と分かってはいたが急であった。そのほんの5日前、クリスマス・コンサートの練習でバッハのカンタータを実に楽しそうに吹いておられたというのに。

「人生は出逢いだ」と常々おっしゃっていたが、先生との出逢いから36年もの歳月を経た2005年、初めて私の立案したコンサートに出演して頂くことになった時のことである。謝礼をどれくらい包めばいいのか当日まで迷っていたところ、開演直前の誰もいない楽屋で「君も金がいるだろう」と大枚の入った封筒をそっと渡して下さった。結局、用意していた薄謝はそのまま渡せず仕舞い。その上、拙作「ソナタ・バロック」をそれこそ全身全霊を込めて演奏して下さった。その後もローマ、ロンドン、東京と行く先々で拙作を次々に紹介して下さいました。「音楽に年は関係ないよ」ともよくおっしゃっていたが、実際、私や私よりずっと若い人達にさえ、一切飾らず等身大で接して下さいる師であった。離れていても、いつも身近な存在に感じた所以であろう。本当に、生涯音楽とオーボエへの純粋な情熱を燃やし続けた方であった。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

「岩崎 勇先生」を偲んで

25期 平井 好子

こんなに早く先生を偲ぶ事になろうとは、誰が想像しただろうか。

私が先生とかわした最後の言葉は 唐突に言われた「一緒に山に登ろう」だった。亡くなられる一か月前の9月27日、滝本裕造教授主宰のベートーヴェン研究会のご講義の帰り道だった。

ぼちぼちいろんなところにガタがきている私には、少し自信がなかったのが軽く聴き流したが、帰り際電車を降りる時に再度おっしゃったので、これは真剣だなと思い、「では何人かに声をかけます。」と言って別れた。

私の中では、今でもまだ、誰に声をかけようか、という心境でいる。

私は16歳で先生に出会ってから今日まで、ずっとおそばで、先生の「音楽への不変の情熱」と「弟子たちへの深い愛情」を見てきた。

勇敢で男らしく、それでいて女性の様なきめ細かい心配りをされるお人柄は、先生のオーボエの演奏に、いや音色にも顕著に現れていた。先生のオーボエに多くの人が魅了され、先生の周りにはいつも多くの人がいた。今一つだけ願いが叶うなら、もう一度先生と一緒に演奏させて頂きたい。先生の生の音はもちろんだが、演奏されるととにかく何とも言えない嬉しそうな顔をもう一度見たいと思う。

演奏終了後、いつもきれいに磨かれていた楽器は、磨いてくれる主人を今でもじっと待っている。

心から岩崎勇先生のご冥福をお祈りいたします。合掌

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

故岩崎勇先生お別れ会

2008年11月22日（日）午後3時より 於：京都市立芸術大学講堂

31期 渡邊 潤也

岩崎先生の喜寿のお祝い会を盛大に催したのは昨年8月のこと。その世話役を務めさせて頂いた中山和彦さん（24期）と私が、そのまま3ヵ月後にお別れ会の世話役も務めることになるとは、夢にも思っていなかったことでした。しかし、先生がその最期を演奏会のリハーサル中に迎えられたと聞き、「岩崎先生らしいよね、先生も本望だっただろうね。」と我々門下生は言葉を交わしたのでした。

故岩崎先生のお別れ会は、10月22日に亡くなられた先生の月命日にあたる11月22日に行われました。1ヶ月という短い準備期間ではありましたが、大学のご好意で京芸講堂をお借りし、ご遺族、そしてたくさんの方々に集まっ

て頂き、音楽家岩崎勇先生のお人柄を偲ぶ心温まる会となりました。

生前、先生からは京芸が沓掛の地へ移転する際のご苦勞を色々とお聞きしていました。その校舎も30年の月日が流れ、至る所に古さが感じられるこの頃です。私が岩崎先生の後を受け京芸で教えるようになって12年。微力ではありますが、京芸発展のために奉職された岩崎先生のご遺志を継ぎ、私も力を尽くしていきたいと思っております。

最後になりましたが、お別れ会を行うにあたりご協力、そしてお気持ちを募ってくださった方々に心より感謝し、会のご報告とさせて頂きたいと思います。どうもありがとうございました。



岩崎勇先生追悼演奏会

日時 平成21年10月17日（土）
時間 3時開演 入場無料
場所 なら100年会館ホール
主催 岩崎勇門下生会
出演 蠣崎耕三(28期Ob)他岩崎勇門下生一同
大嶋義実(26期Fl)他有志一同
曲目 門田展弥作曲(20期Ob)
ラプソディ・オブ・オーボーズ(委嘱作品) 他

追悼 廣瀬量平先生



「廣瀬先生をしのんで」

25期 上田 益

廣瀬先生が京都芸大に赴任なさった時、音楽学部は岡崎の地にありました。私が3回生の時の事です。

先生が私たち作曲の学生に対して最初に取り組まれたことは、「基礎を徹底的にやる」という事でした。また基礎という大切な土台を構築していくことと並行して、自分の足もとをきちんと見つめること、そして自分が表現すべきことは何なのかを考えることの大切さなどを教えていただきました。

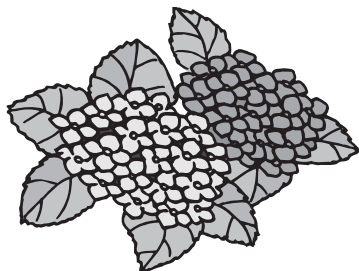
ある時先生がふと仰った言葉があります。それは「相手に惚れなきゃだめだよ」という言葉です。その言葉はとても深く、重く、また大きな課題とし

て私の心に響きました。

五線紙の向こう側にいるスタッフ、演奏家、そして音楽を必要としている対象、それを見たり聴いたりする人たちなどすべてを生かすこと。そして表現者として心底愛情を注ぐことの大切さと、社会との関わり、人と人との関わりの中でこそ音楽が生まれてくることを教えて下さった言葉だと思っています。

弟子たちは、それぞれが廣瀬先生からいただいた大切な「言葉」や「思い」を胸に、それぞれのやり方で、実践を続けていきます。先生のご冥福を心よりお祈り致します。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■



「フフッ、どうしちゃってる？」

28期 秋 透

悪戯っ子のような、例の口調で、ときどき思い出したようにお電話をいただく。

「でさ……」と、つい先程の話の続きをする風情でいきなり話が始まる。相変わらず汲めども尽きぬ話題の荒波に翻弄されながらも、ここ数年心なしか噎れてか細くなったお声や、ふと漏らされる弱気なお言葉が気にかかってはいた。

私の中での廣瀬量平は、つむじ風のように辺りを席卷し、突き進むエネルギーな巨人だ。一見無茶とも思える程にエンドレスな仕事ぶりと、とどまる所を知らない蘊蓄と饒舌。小気味の良いまでに尽きることのない自慢話と、その一方でみせる他者の気持ちに対する深い共感や細やかな思いやり。それらは、作曲という行為が強烈な自我と、人間そのものへの深い洞察の両輪の上に初めて成立するものである事を私達に教えた。旧芸大の畳張りの作曲研究室から次々と生み出されていく新作の数々。その作曲の現場を目の当たりにした当時の私達にとって、創作活動に全身でのめり込んだ生の作家の精神が放つ激しい閃光と厳しく張り詰めた緊張感、その仕事ぶりそのものが、かけがえのない教育だった。

今あらためて、膨大な作品リストをみるまでもなく、最後になった入院の直前まで作品を書き続けられ、生涯、アクティブな作曲家として人生を全うされた。

安らかに、おやすみ下さいというのが、決まり文句だが、先生に限っては、病の苦しみから解放されて、「もう、さ、何年も先まで作曲の予定がうまっちゃってるわけ……」と、あちらで呟くどこか満足げなお姿が、目に浮かぶ……。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

廣瀬量平先生の思い出

28期 十河 陽一

私が廣瀬量平先生のお名前を最初に認識したのは小学生の頃、ドラマの音楽担当者として紹介されているのを見た時だったと思います。そして高校に入学直後、先生の合唱曲に出会い、全ての声部が旋律として美しく磨きあげられた抒情的な作風に魅了されました。ほどなくFMで聴いたのが、いわゆる現代音楽の大作「尺八協奏曲」。これら三つの作品は多種多様で、とても同一人物が書いたとは考えられないような印象を受けたのですが、最近になって、その理由が少しずつ分かってきたように思います。先生は私に「今の君が個性だと錯覚しているものは癖にすぎない。それはただのゴミだ。無駄を省き、自分を磨いて、最後に残ったものが本当の個性だ」と教えて下さいました。真に個性的でありさえすれば、音楽のスタイルがどんなに変わろうとも、作家の存在が失われることはないというのが、廣瀬先生の理念なのです。

久光浩君(28期)の結婚式の時、私のスピーチを聞いた先生が「80点だね。後半が心情的になりすぎたね」とほほ笑みながらおっしゃった事を覚えています。日常会話全てがレッスンでした。その久光君が亡くなった時、棺の傍らで号泣された廣瀬先生もまた、昨年この世を去られました。先生の強靱な体力と、無尽蔵ともいえる精神力を思う時、その死は早すぎたと考えざるを得ません。廣瀬先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

廣瀬量平メモリアル演奏会「廣瀬量平の遺産」（仮称）
11月19日(木)19:00～ 京都コンサートホール大ホール
指揮：広上淳一 管弦楽／京都市交響楽団
オーケストラのための「シンフォニア京都」他
主催：京都市音楽芸術文化振興財団

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

----- 切り取り線 -----

京都市立芸術大学音楽学部
第132回定期演奏会

音楽学部同窓会真声会 会員券

2009年7月5日(日) 14時開演（13時開場）
京都コンサートホール大ホール

切り取り線

廣瀬量平先生をしのぶ会

2009年1月9日(金)午後7時より

於：京都コンサートホール・アンサンブルホールムラタ

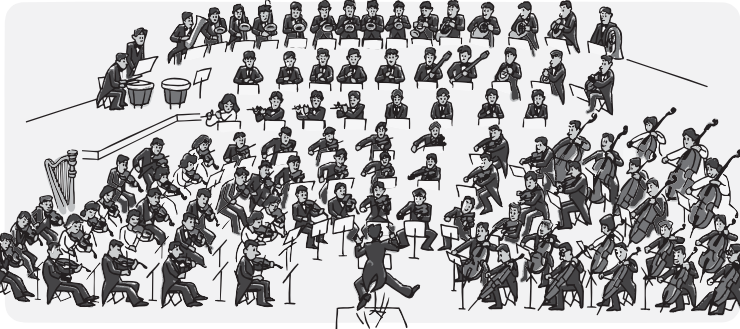
32期 中村 典子

受勲と函館市栄誉賞の受賞を祝し、廣瀬先生をかこむ会を催しましたのは2008年7月のことでした。4ヶ月後、ご闘病のなか門下生が次々と先生をお見舞いする深秋の11月24日、先生は旅立たれました。約1ヶ月半後の2009年1月9日、さまざまな方々の多大なご協力ご尽力のおかげを持ちまして、館長をつとめられた京都コンサートホールにご配慮頂き、ご遺族、多数のかたのご来場をいただき、廣瀬先生の音楽で先生をしのぶ会を行うことができました。

当日のプログラムには弦楽オーケストラ、フルートオーケストラ、合唱、器楽、邦楽など幅広い先生の作品が京都との関わりから選ばれ、梅原元学長、潮江現学長はじめ縁の皆さまのお心のこもったお話や海外から追悼のメッセージもいただき、内外での先生の作品への高い評価が伺えるとともに、初代センター所長をつとめられた日本伝統音楽研究センターへの構想、実現にいたる渾身の基盤づくりのご苦勞と、京都の音楽の発展のためになされたおおきな軌跡を辿る深い時間となりました。作品の一つ一つに敬意を込めて会場から拍手が送られました。

私も、芸大に職をいただき、殆ど全ての時間を学舎にすごす13年が早くも経ちました。改めて芸大で私達が先生から受けたはかりしれない楽恩を思い、それぞれが、天から受け地に深く根ざす先生の音楽教育の構想を、ここ京都の地からおおいに広がり行くものとなるよう、これまで芸大を作ってくださった諸先輩の皆様とこれから出会う方々とともに力を尽くし、音楽を生きる日々を深めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、しのぶ会を行うにあたり、ご協力くださいました皆様に深く感謝し、会のご報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。



～定期演奏会をぜひ聴きにいらしてください～

来たる7月5日（日）午後2時より、響ノ都プロジェクト京芸ルネッサンス2009コンサートシリーズ 京都市立芸術大学創立130周年記念プレ記念事業 京都市立芸術大学音楽学部第132回定期演奏会が京都コンサートホール大ホールにて行われます。

今回は、C. M. ウェーバーの歌劇《魔弾の射手》序曲に始まり、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲二長調作品35を学内オーディションで選抜された弦楽専攻4回生東珠子さんの独奏、そしてドヴォルザークの交響曲第9番木短調「新世界」より、をお楽しみ頂きます。卒業生の皆様、ぜひ在学生の演奏をお聴きください。

真声会の会員の皆様は、無料でご入場いただけます。会場受付にて卒業・修了期、専攻、お名前をお知らせください。

また、前回始まりました会員サービスであります、会報内に印刷されてある真声会会員券をぜひご利用ください。この会員券は、会員さまご本人、ご家族、友人知人のかたなどがご利用可能です。**皆さまどうぞお誘い合わせのうえ、ご来場くださいませ。**

皆さまのご来場をこころよりお待ちしております。

日時：2009年7月5日（日）午後2時開演（午後1時開場）
※午後1時15分よりホワイエにて
プレトーク&プレコンサートを開催予定！

会場：京都コンサートホール 大ホール

曲目：C. M. v. ウェーバー：歌劇《魔弾の射手》 序曲
チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
ドヴォルザーク：交響曲第9番 木短調「新世界より」

出演：指揮 増井 信貴（本学音楽学部教授）
ヴァイオリン独奏 東 珠子（弦楽専攻4回生）
管弦楽 京都市立芸術大学音楽学部管弦楽団

入場料：1,200円（全席自由）

真声会会員のコンクール等受賞者

- 第19回堺ピアノコンクール（平成20年8月30日（土） 桐・美木多文化会館（大阪府堺市）） 大学・一般の部金賞（第1位）
ピアノ専攻3回生 宋 和映
- 第19回吹田音楽コンクール（平成20年12月7日（日）メイシアター（吹田市））第1位
大学院器楽専攻（ピアノ）2回生 金田 仁美
- ミッドランド交響楽団&合唱団主催
「ヤングアーティスト国際コンクール」（平成21年1月10日（土）ミッドランド短期大学）管打楽器部門ファイナリスト
平成19年度管・打楽専攻卒業 沓野 勢津子
- 第14回K O B E国際学生音楽コンクール（平成21年1月11日（日）ハーバーホール（神戸市））優秀賞
声楽専攻4回生 中島 麻弥子
- 2008年度 青山音楽賞（平成21年1月23日（金）青山音楽記念館（京都市））新人賞
大学院器楽専攻2回生（打楽器）安田 直己
- 2008年度 青山音楽賞（平成21年1月23日（金）青山音楽記念館（京都市））新人賞
大学院声楽専攻平成19年度卒 五島 真澄
- 2008年度 青山音楽賞（平成21年1月23日（金）青山音楽記念館（京都市））
平成6年度卒 弦楽専攻（ヴァイオリン）井上 隆平
- 2008年度 柴田南雄音楽評論賞（財団法人アリオン音楽財団）奨励賞
大学院博士課程音楽学専攻3回生 高野 裕子

真声会後援の演奏会

【既に開催された演奏会】

- ♪An Evening of Art Songs ～歌曲の夕べ
日時：2009年1月29日（木）19:00
会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
出演：藤美千代（43期声）他
曲目：R. シュトラウス 夜 チェーリエ 他
- ♪アフター・アワーズ・セッション ～冬の日の室内楽～
日時：2009年2月10日（火）18:30
会場：東梅田教会
出演：右近恭子（25期Pf）、日比浩一（29期Vn）、松原央樹（29期Cl）、池村佳子（45期Vc）、ギオルギ・バブアゼ（芸大講師Vn）
曲目：ブラームス ピアノ五重奏曲へ短調Op.34
ベートーヴェン クラリネット三重奏曲
「街の歌」変ロ長調Op.11 他
- ♪藤原ひろ子ピアノリサイタル
日時：2009年3月1日（日）14:00
会場：ウィングス京都
出演：藤原ひろ子（18期Pf）
曲目：シューマン 森の情景Op.82
ショパン 前奏曲「雨だれ」、バラード第1番Op.23
ブラームス ソナタOp.5
- ♪香西先生を囲むコンサート
日時：2009年4月11日（土）14:00
会場：府民ホールアルティ
出演：香西理子（特別会員）、日野俊介（29期Vn）、中村整（23期Vc）、山根摩母衣（46期Vn）、山崎桂子（15期Vn）、中村公俊（51期Vn）、三宅恵（院1回生Vn） 他
曲目：テレマン 4つのヴァイオリンのためのコンチェルト
バッハ ブランデンブルク協奏曲第3番
モーツァルト 3つのヴァイオリンのための小さな音楽 他
- ♪池田みゆきアクアクレール・コンサート「春の風のように」
日時：2009年4月12日（日）14:00
会場：東京オペラシティ近江楽堂
出演：池田みゆき（31期Fl） 他
曲目：クーブラン 恋のうぐいす
シューベルト 水の上で歌う 他
- ♪山本福久メゾ・ソプラノリサイタル
日時：2009年4月25日（土）14:00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：山本福久（院16期声）、小林美智（Pf）
曲目：山田耕柞 AIYANの歌
中田喜直 六つの子供の歌
モーツァルト 偉大な魂、大きな心は

- トマ 「ミニヨン」より 君よ知るや、南の国 他
- ♪メンデルスゾーン生誕200年
室内楽プロジェクト全3回シリーズ（第1回）
日時：2009年5月9日（土）15:00（プレトーク14:20）
会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホール
出演：中村公俊（51期Vn）、小石みなみ（44期Pf）、大西泰徳（49期Vc）、溝渕悠理（院22期声）、榊原契保（40期Pf）、井藤麻依子（49期作）、小石かつら（43期Pf）
曲目：メンデルスゾーン 演奏会用序曲《ヘブリディーズ諸島（フィンガルの洞窟）》Op.26ピアノ連弾とヴァイオリンとチェロのための編曲（C.Burchard編）
ヴァイオリンソナタOp.4
五月の歌 他
- ♪石田香織ピアノリサイタル
日時：2009年5月9日（土）19:00
会場：リーガロイヤルホテル ザ・クリスタルチャペル
出演：石田香織（40期Pf）
曲目：モーツァルト
「ああお母さま、あなたに申しましょう」による12の変奏曲
ドビュッシー 前奏曲集第一巻より
シューベルト さすらい人幻想曲 他
- ♪小川友子ピアノ室内楽シリーズⅣ
日時：2009年5月10日（日）14:00
会場：ザ・フェニックスホール
出演：小川友子（27期Pf）、小森谷巧（Vn）、唐沢安岐奈（Vc）
曲目：ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ第1番
チェロソナタ第3番
ピアノ三重奏曲第7番「大公」
- ♪親子で歌いっごう 日本の歌～春の巻～ チャリティーコンサート
日時：2009年5月16日（土）14:00
会場：ガレリアかめおか響ホール
出演：片山映子（27期声）、美馬美紀（30期声）、橋本尚（35期Pf） 他
曲目：「親子で歌いっごう日本の歌」
（平成19年文化庁・（社）日本PTA全国協議会）より
おぼろ月夜、春がきた、春の小川 他
- ♪櫛原藍ピアノリサイタル
日時：2009年5月29日（金）19:00
会場：いずみホール
出演：櫛原藍（53期Pf）
曲目：ベートーヴェン ソナタ第30番
ショパン バラード第1番、第4番
ラヴェル 鏡 他
- ♪エッカレピアノデュオ 連弾コンサート～小さな子供と大きな子供のための～
日時：2009年5月31日（日）14:00

会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：山口真理子(44期Pf)、フォルカー・エッカル
曲目：ラヴェル マ・メール・ロア
青島広志 モン・ペール・ロワ
シューマン 小さな子供と大きな子供のための12の連弾小品Op.85

♪ベートーヴェン35のソナタ 多川響子ピアノソナタ完全全曲リサイタル

日時：2009年5月31日(日)15:00
会場：ザ・フェニックスホール
出演：多川響子(44期Pf)
曲目：ベートーヴェン ピアノソナタ第1番、第12番、
選帝侯ソナタ、第23番「熱情」

♪山崎祥代ピアノリサイタル“スペインの風”

日時：2009年5月31日(日)15:00
会場：京都府立府民ホールアルティ
出演：山崎祥代(45期Pf)
曲目：ドビュッシー 版画
リスト スペイン狂詩曲
アルベニス イベリアより ロンデーニャ・トリアーナ
グラナドス 演奏会用アレグロ 他

♪片野涼子ピアノリサイタル

日時：2009年6月6日(土)14:30
会場：ザ・フェニックスホール
出演：片野涼子(35期Pf)
曲目：モーツァルト ソナタK.282
ショパン アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズOp.22
武満徹 遮られない休息 他

♪奥田聖子・丸山依里ソプラノデュオコンサート

日時：2009年6月7日(日)15:00
会場：南港サンセットホール
出演：奥田聖子(48期声)、丸山依里(48期声)、石原由佳子(48期Pf)
曲目：シューベルト まず、野ばら
フォーレ 夢のあとに、ネル
中田喜直 たんぽぽ、桐の花
團伊玖磨 抒情歌 他

♪クラムジカ第1回公演VOX BALAENAE

くじらのこえーフルートのラディカリズムー
日時：2009年6月13日(土)18:30
会場：京都ART COMPLEX 1928
出演：江戸聖一郎(49期Fl)、中井絵理(52期Cl)、中村公俊(51期Vn)、
木須すみれ(51期Vn)、大西泰徳(49期Vc)、松井萌(院21期Pf)、
井上真由美(院22期Pf)、中村典子(32期作)、清水慶彦(48期作)、
増田真結(51期作) 他
曲目：ジョージ・クラム 秋の こだま、くじらのこえ
清水慶彦 トリトリー(初演)
中村典子 明月楽一壺の巻(初演)
増田真結 プロブレマティカ(京都初演) 他

【これから開催される演奏会】

♪林育子メゾ・ソプラノリサイタル

日時：2009年7月4日(土)14:00
会場：FIGAROホール
出演：林育子(37期声)
曲目：ヘンデル オペラ「セルセ」より 樹木の陰で
オペラ「ジュリアス・シーザー」より
涙の流れるままに 他

♪メンデルスゾーン生誕200年

室内楽プロジェクト全3回シリーズ（第2回）
日時：2009年7月4日(土)15:00(プレトーク14:20)
会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホール
出演：中村公俊(51期Vn)、小石みなみ(44期Pf)、大西泰徳(49期Vc)、
木須すみれ(51期Vn)、榊原契保(40期Pf)、井藤麻依子(49期作)、
小石かつら(43期Pf) 他
曲目：メンデルスゾーン 演奏会用序曲《真夏の夜の夢》Op.21
ピアノ連弾版(メンデルスゾーン編)
チェロソナタ第1番
弦楽四重奏第4番
井藤麻依子 メンデルスゾーン・オマージュ作品 他

♪小澤まり子ピアノリサイタル

日時：2009年7月5日(日)15:00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：小澤まり子(48期Pf)
曲目：J. S. バッハ パルティータ第2番ハ短調
シューベルト ピアノソナタホ短調
ラヴェル クーブランの墓 他

♪An Evening of Art Songs ～歌曲の夕べ

日時：2009年7月7日(火)19:00
会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演：藤美千代(43期声)、清水由希子(46期声) 他
曲目：ブーランク 平凡な話
R. シュトラウス 四つの最後の歌 他

♪高木知寿子ワルシャワピアノトリオ Ensemble in Osaka

日時：2009年7月13日(月)19:00
会場：ザ・フェニックスホール
出演：高木知寿子(27期Pf) 他
曲目：フォーレ エレジー(チェロ・ピアノ)
フランク ヴァイオリンとピアノの為にソナタイ長調
メンデルスゾーン ピアノトリオ第1番ニ短調Op.49 他

♪アフター・アワーズ・セッション “Summer Winds” 夏！情熱の管楽器！

日時：2009年7月14日(火)18:30
会場：東梅田教会
出演：松原央樹(29期Cl)、右近恭子(25期Pf) 他
曲目：ベートーヴェン ピアノと管楽のための五重奏曲
ロッシーニ 木管四重奏曲 他

♪誰も寝てはならぬ 5人のテノールガラコンサート

日時：2009年7月26日(日)14:00
会場：京都コンサートホール 大ホール
出演：北村敏則(29期声)、竹内直紀(院17期声)、木下紀章(47期声)、
山本康寛(50期声)、楊雪元(院21期声)、北村麻也子(Pf、29期声)、
武知朋子(40期Pf)
曲目：ブッチーニ 「トゥーランドット」より 誰も寝てはならぬ
「トスカ」より 星は光りぬ
カンツォーネより オーソレミオ、サンタルチア、グラナダ
ロッシーニ 踊り 他

♪野村友紀チェロリサイタル

日時：2009年8月8日(土)17:00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：野村友紀(50期Vc)
曲目：ブーランク チェロソナタ
ブラームス チェロソナタ第2番 他

♪コチの会・東風第1回旗揚げ公演

日時：2009年8月28日(金)19:00
会場：茨木市ドリームホール
出演：熊谷美紀(31期作)、加藤ユミコ(32期作)、
中田麦(4回生Per) 他
曲目：加藤ユミコ 遥遊
中村典子 婀娜
熊谷美紀 デュオ 他

♪ヴァイオリン・フルート・ピアノの夕べ～もっと身近にクラシックVol.3～

日時：2009年9月12日(土)19:00
会場：長岡京市中央生涯学習センター メインホール
出演：鈴木愛子(44期Pf) 他
曲目：キューイ フルート・ヴァイオリンとピアノの為に5つの小品 作品56
バッハ シャコンヌ
ショパン バラード第1番ト短調 作品23 他

♪メンデルスゾーン生誕200年

室内楽プロジェクト全3回シリーズ（第3回）
日時：2009年9月23日(水)15:00(プレトーク14:20)
会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホール
出演：中村公俊(51期Vn)、小石みなみ(44期Pf)、大西泰徳(49期Vc)、
木須すみれ(51期Vn)、榊原契保(40期Pf)、井藤麻依子(49期作)、
小石かつら(43期Pf)
曲目：メンデルスゾーン
演奏会用序曲《静かな海と楽しい航海》Op.27ピアノ連弾とヴァ
イオリンとチェロのための編曲(C.Burchard編)
ピアノ四重奏Op.1
井藤麻依子 新作 他

♪林澄子ピアノリサイタル

日時：2009年10月25日(日)14:00
会場：乗松巖記念館エスパス21
出演：林澄子(39期Pf)
曲目：ベートーヴェン ピアノソナタ第8番「悲愴」
メンデルスゾーン 無言歌集より「狩人の歌」「春の歌」「紡ぎの歌」
ウェーバー 舞踏への勧誘(華麗なロンド) 他

※演奏会の真声会後援および会報掲載は会費納入者のみとさせて頂いて
おります。どうぞご了承ください。

真声会からのお知らせ

3月に、2008年度版の真声会名簿が発行されました。住所変更等で、
校正に間に合わなかった方、その後変更のあった方は、真声会までお知
らせください。
新名簿で、以下の方に間違いがありましたので、お詫びして訂正いた
します。

会員番号2459 増永雄記さん→下段の(雄紀)は不要
会員番号2481 浅井咲乃さん→下段の(浅野)は不要

編集後記

こんな時期にインフルエンザが流行るなんて……昨シーズン、予防接種を2回受けていたにも拘わらずクリスマスにインフルエン
ザをもらった私は、今回の新型インフルエンザ騒動に恐怖！京芸も6日間の休校措置が取られましたが、その間もマスクをして大学
へ出向き、編集作業を進めてまいりました。今回は原稿量が多く、また自分の演奏会の準備と重なり、途中でパソコン拒否に陥りま
したが、なんとか健康は守られ、無事に発行までこぎつけました。とても充実した会報になったと思います。寄稿してくださった会
員の皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。
(O)